

高速道路整備が世界遺産白川郷の観光実態に与えた影響分析

名城大学大学院 学生会員 ○西本 将典
名城大学大学院 フェロー 松井 寛

1. はじめに

岐阜県白川村の合掌造り集落は、平成7年にユネスコ世界遺産条約に基づき国内で6番目の世界文化遺産として登録され、年々全国各地から多くの観光客が訪れるようになった。また、平成11年に東海北陸道荘川ICが開通し、平成14年には白川郷ICが開通したことにより、白川郷までの交通アクセスが容易となりさらに全国各地からの観光客は増加した。そして今後は平成19年には白川郷IC～飛騨清見IC間が開通する予定で、これにより東海北陸道が全線開通することになり、開通後白川郷を含む周辺の観光地への周遊ルートの変化が予想される。そこで本研究では、観光客にヒアリングアンケートを行うことで観光客の旅行スケジュールを把握し、地域別の白川郷までの経路、周遊ルートの変化、交通手段別の白川郷での滞在時間について分析を行った。

2. 白川郷の観光客数と日帰り客数の推移

図1は白川郷での宿泊客数と日帰り客数の関係を示している。平成11年、平成14年に荘川IC、白川郷ICが開通したことにより年々日帰り客数は増加し、荘川ICの開通する前の平成10年と白川郷ICの開通後の平成14年を比較すると、年間約50万人日帰り客が増加しており、これは高速道路整備により旅行時間が短縮されたために日帰り観光圏が拡大したことによると考えられる。しかし、宿泊客数は高速道路が整備される前と後では年間約6千人増加した程度にとどまっており、平成10年から平成15年まで年間平均6万人前後と高速道路整備による効果はそれほど大きくなかった。今後東海北陸自動車道が全線開通すると、日帰り客数は増加すると考えられるが宿泊客数はあまり増加しないと考えられる。

3. 白川郷観光実態に関するアンケート調査

3.1 アンケート調査概要

白川郷を訪れる観光客の旅行実態を把握するため、せせらぎ公園駐車場で週末の二日間調査を行った。
調査日時：平成16年11月6日（土）、7日（日）
調査場所：せせらぎ公園駐車場（普188 大38）
（荻町地区 世界文化遺産指定地区）

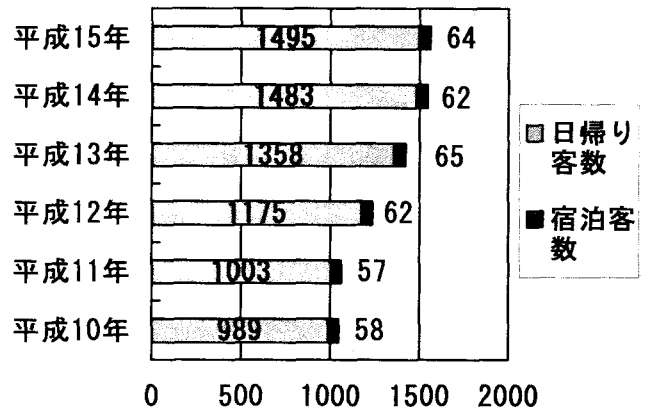


図1 白川郷の観光入込み客数（単位：千人）

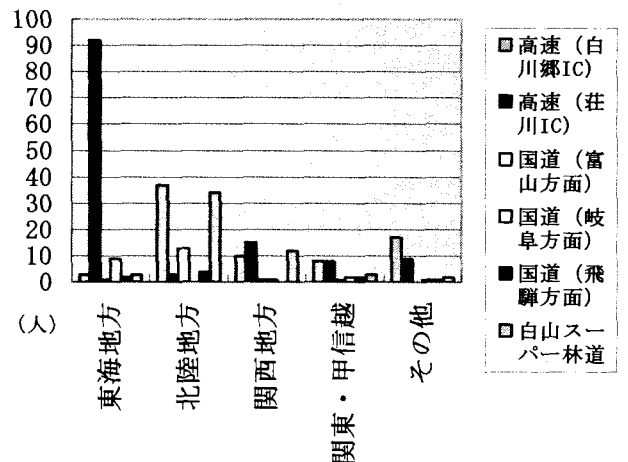


図2 地方別の白川郷までの経路

調査方法：駐車場内及び路上で観光客を対象にヒアリング形式でアンケートを行う。

3.2 調査項目

前回訪れた時、今回、開通後訪れる時の旅行目的・訪れた観光地・日程・交通手段・利用経路・時間帯別スケジュール・住所・年齢・性別等 全24項目

3.3 調査結果

アンケートのサンプル数を以下に示す。

11月6日（土）	133 サンプル
11月7日（日）	226 サンプル
合計	359 サンプル

4. アンケート結果

4.1 地域別の白川郷までの経路

図2はアンケートの結果で、地域別の白川郷までの経路を示している。東海地方は、全体の83.6%の観光客が荘川ICを利用していることが分かり、北

陸地方は、白川郷 IC と白山スーパー林道を利用する 2 経路で白川郷に訪れていることが分かる。そして関西地方からは、荘川 IC、白川郷 IC、白山スーパー林道の 3 経路で白川郷に訪れていることが分かり、これは紅葉シーズンにアンケートを行ったので白山スーパー林道の利用が多いと考えられる。

4.2 東海・北陸からの日帰りルートの変化

表 1 は東海・北陸からの日帰りルートの変化を示している。今回白川郷のみを訪れ、開通後は東海・北陸地方とも白川・高山市を訪れたいという観光客が 19 名と最も多い結果となった。次に東海地方の観光客で今回は白川郷のみで開通後は白川・北陸を訪れたいという観光客が多く、高速道路整備が白川郷周辺の観光地への周遊ルート拡大につながっているのではないかと考えられる。

4.3 交通手段・日程別の立ち寄った観光地

表 2 は交通手段・日程別の立ち寄った観光地を示している。自家用車の日帰りは白川郷のみしか訪れない観光客が 104 人と最も多い結果となり、次に荘川の 16 人であった。観光バスも白川郷のみが 5 人と最も多かったが、観光バスの日帰り観光客が少なかったためサンプル数は少なかった。1泊2日は自家用車、観光バスとも北陸が最も多い結果となり、次に高山が多く、白川郷・高山、白川郷・北陸といったルートで観光される方が多いことが分かり、日帰りでは主に白川郷のみを訪れ、1泊2日では2つ以上の観光地を訪れる方が多いことが考えられる。

4.4 交通機関別の白川郷での滞在時間

図 3、4 は自家用車、観光バスの白川郷での滞在時間を示している。図 3、4 から日帰りでの滞在時間は自家用車が平均 3 時間 16 分、観光バスは平均 1 時間 52 分と観光バスのほうが 1 時間 24 分短い。1泊2日での滞在時間は自家用車が平均 2 時間 37 分、観光バスは平均 1 時間 36 分と観光バスのほうが 1 時間 1 分短い。これは、表 2 から自家用車は立ち寄った観光地が白川郷のみの観光客が 104 人と多いということ、観光バスはトイレ、食事休憩のみ白川郷に訪れているのと、幾つもの観光地に立ち寄るため白川郷の滞在時間は短く、1 時間以上差があるのではないかと考えられる。

5. まとめ・今後の課題

本稿では高速道路整備の影響であると考えられる、

	今回観光地	次回観光地	東海	北陸
往復 高速	白川郷のみ	白川・高山	7	8
		白川・北陸	3	0
	白川・高山	白川郷のみ	1	0
片道 高速	白川郷のみ	白川郷のみ	1	1
		白川・高山	1	3
	白川・高山	白川郷のみ	0	2
白山利用	白川・北陸	白川郷のみ	0	3
			13	17

表 1 東海・北陸地方からの日帰りのルート変化

日帰り	白川のみ	荘川	高山	金沢	北陸	その他
自家用車	104	16	13	0	9	2
観光バス	5	0	2	2	3	2
1泊2日						
自家用車	9	8	22	3	25	7
観光バス	0	2	28	31	92	14

表 2 交通手段・日程別の立ち寄った観光地

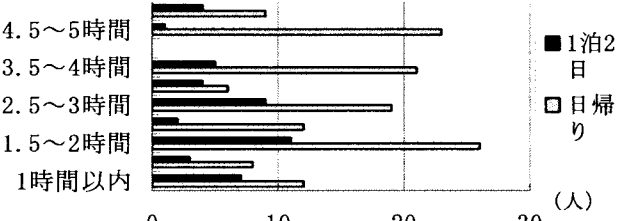


図 3 自家用車の白川郷での滞在時間

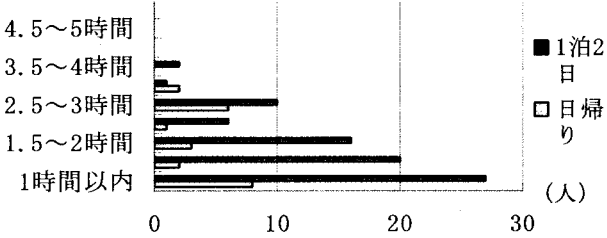


図 4 観光バスの白川郷での滞在時間

周遊ルートの変化、滞在時間について分析を行った。結果として、現在は自家用車での日帰り観光客は白川郷のみが多いが、開通後は高山や北陸といった地方を周遊したいという結果、そして観光バスの滞在時間が自家用車に比べ日帰りも 1 泊 2 日も 1 時間以上短い結果を得た。今後は、日帰り圏内の拡大に伴いさらに自家用車・観光バス共に滞在時間が短くなり、短時間に観光客が集中すると予想されるので、滞在型の観光地を目指しピークカットを目的とした周遊ルート、交通規制等の提案を行いたい。

[参考文献]白川村役場ホームページ観光課 商工光課情報及び観光統計、交通量調査参照